

報道関係者各位

2025年4月22日
特別民間法人 中央労働災害防止協会

「第84回全国産業安全衛生大会 in 大阪・近畿」 9月10日～12日 大阪市で開催 ～特別講演は人間酷似型ロボット研究の第一人者である石黒浩氏に決定～

中央労働災害防止協会(略称：中災防、会長 十倉雅和・日本経済団体連合会 会長)は、令和7年9月10日(水)～12日(金)の3日間、大阪府大阪市で「第84回全国産業安全衛生大会」を開催します。

講演やシンポジウムの詳しい内容、参加申込案内などの最新情報は4月中旬より公開した「全国産業安全衛生大会特設ウェブサイト」にて順次公表していきます。

<https://j-lppf2.jp/jisha-taikai2025/>

中災防 全国大会

で 検索



大阪での開催は平成25年以来、12年ぶりで、インテックス大阪、ATCホール(大阪市内)の各施設において総合集会および分科会を行います。会期中は全国の企業・団体・教育機関等から13,000人の参加者を見込んでいます。

今回のテーマは「共に築こう 安全・健康 一人ひとりが輝く未来」です。

初日の総合集会では、人間酷似型ロボット(アンドロイド)研究の第一人者である石黒浩氏(大阪大学基礎工学研究科教授・ATR石黒浩特別研究所客員所長)による特別講演「多様な生き方を実現するアバターと未来社会」を予定しており、アバター研究を通じて見えてきたアバターと人間が共生する新たな未来社会についてお話しいたします。

石黒浩氏▶



2日目、3日目の分科会では有識者による専門的な講演40本のほか、化学物質の自律的管理の取り組みや50人未満の事業場がストレスチェックを導入する際のポイントをテーマにしたシンポジウム等、職場の労働災害防止や健康づくり等に取り組む企業・団体・教育機関による研究発表を180本予定しています。

主な講演、シンポジウム等の内容と演題(一部)

○フジテック株式会社 専務執行役員 デジタルイノベーション本部長 友岡 賢二氏
「フジテックのDX戦略～全ては安全・安心のために」

○人事・戦略コンサルタント HR戦略 代表 松本 利明氏
「やる気を失った「年上部下」を戦力化の秘訣とは～中高年の活性化こそが要」

○大阪医科薬科大学 看護学部 教授 飛田 伊都子氏
「行動を変える心理学」

○(株)大林組 執行役員大阪本店建築事業部副事業部長兼大阪本店夢洲総合工事事務所 総括所長 高木 昌紀氏
「大阪・関西万博 太陽の塔から世界最大の大屋根リングへ ～歴史に刻む120社共闘～」

次ページへ続く

○シンポジウム

「化学物質の自律的管理を推進する」

○パネルディスカッション

「ストレスチェック制度義務化から10年～50人未満事業場への対応を考える～」

分科会構成

- (1) マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会
- (2) ダイバーシティ等分科会
- (3) 安全管理活動分科会(①～③)
- (4) DX等分科会
- (5) 機械・設備等の安全分科会
- (6) 安全衛生教育分科会
- (7) ゼロ災運動分科会
- (8) 労働衛生管理活動分科会
- (9) 化学物質管理活動分科会
- (10) メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会

○ 参加者専用の閲覧サイトでは、現地開催プログラムとは別に、オンライン限定プログラムとして企業・団体等による研究発表、特別報告を約30本ご覧いただけます。

また、国内最大の安全衛生保護具・機器等の総合展示会「緑十字展(りよくじゅうじてん)2025 -働く人の安心づくりフェア-」をインテックス大阪において同時開催します。入場無料で、会期中は約18,000人(昨年14,754人)の来場を見込んでいます。今年も「安全衛生保護具体験道場」ほか、特別企画展も予定しております。全国から訪れる来場者との商談の場であるとともに、地元の他企業・異業種との情報交流の場となります。

全国産業安全衛生大会は、「全国産業安全大会」として1932(昭和7)年に開催して以来、働く人の安全・健康の確保と労働災害の撲滅を目的として、労働安全衛生に関する取組と知識を共有するとともに、最新の情報を提供する場となっています。詳細は **[別紙]** をご覧ください。

※この資料は、厚生労働記者会、労政記者クラブ、厚生日比谷クラブ、鉄鋼研究会、自動車産業記者会、大阪経済記者クラブに配布しています。

連絡先

特別民間法人 中央労働災害防止協会

【担当】 教育ゼロ災推進部長 寺島 友子

【照会先】 総務部 広報課長 岩田 良子 電話 03-3452-6449 E-mail koho@jisha.or.jp

全国産業安全衛生大会の 誕生とあゆみ

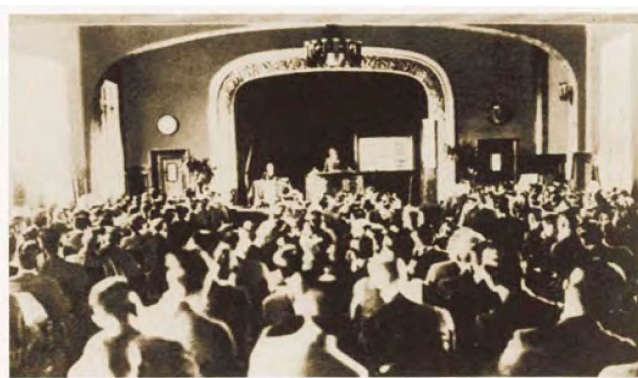
◆ 昭和7年、第1回『全国産業安全大会』 東京で開催

第1回の全国産業安全大会が、(財)産業福利協会の主催により、1932(昭和7)年11月21日から3日間、東京・神田の学士会館で開催され、300人を超える人たちであふれた。

安全運動の先駆者・蒲生俊文の司会のもと、“同志が集う”会場には熱気があふれ、互いに手を取り合って安全運動を推進していこうとする連帯ムードが高まった。

大会の目的の一つである「連帯」は十分に果たされたが、それにも増して注目されるのは、その後ひたむきに継続されることとなる安全対策への「科学の導入」といえるものであった。

それは、「人間とは何か」にメスを入れ、人間の持つ弱点をカバーする方策に取り組もうとする科学的姿勢が、企業の中に生まれつつあることを示したものだ。



盛況な第1回全国産業安全大会（昭和7年11月・東京・学士会館）

◆ 昭和29年、第1回『全国労働衛生大会』 東京で開催

1954(昭和29)年10月14、15日の2日間、東京の読売ホールにおいて、全国から1,300人の主に労働衛生管理に携わる関係者が集い、第1回の全国労働衛生大会が開催された。

北は富士製鉄(株)室蘭製鉄所から南は旭化成(株)延岡工場まで、いずれも衛生管理の進んだ事業場からの発表であった。結核、鉛中毒、けい肺などの予防に関する報告が目立った。

◆ 昭和44年に『安全大会』と『労働衛生大会』 が一本化されて『全国産業安全衛生大会』に

1967(昭和42)年の東京大会は、労働基準法施行20周年記念大会として初めて安全、衛生両大会の合同開催となり、参加者は13,000人を数えた。



全国産業安全衛生大会・総合集会

翌々年の1969年(昭和44年)には現在の「全国産業安全衛生大会」の原型が生まれ、内容を拡充するとともに「緑十字展」を盛大に開催することとなった。2020(令和2)年、第79回札幌大会は新型コロナウイルス感染症拡大により開催中止を余儀なくされたが、翌2021(令和3)年の第80回東京大会はオンライン配信と並行して開催。以降、全国産業安全衛生大会は現地開催を基本としながら、参加者にはオンラインで視聴可能な限定プログラムを配信するなど、時代のニーズに合わせたイベントに進化している。

総合展示会「緑十字展」の併催

◆ 緑十字展とは

安全衛生保護具、機械の本質安全化にかかる機器、職場環境・作業方法の改善機器、健康増進機器等の展示や装着体験セミナー等を通じて、職場の安全衛生を普及・促進し、労働災害の防止、働く人の心身両面にわたって健康で快適な職場環境づくりに関する安全と健康の最新情報と技術をご紹介しますわが国最大級の展示会である。



◆ 第1回緑十字展は昭和43年、安全会館(東京都港区)で

1968(昭和43)年9月30日から10月7日にかけて、東京都港区の安全会館および同会館前広場において、全国労働衛生週間にあわせて開催された。

翌1969(昭和44)年に名古屋市で開催された全国産業安全衛生大会から、毎年同時開催するようになり、現在に至っている。



展示ブース例



安全衛生保護具体験道場

参考資料：「安全衛生運動史・安全専一から100年」(中災防発行)

「日本労働災害推進会のあゆみ」(日本労働災害推進会発行)

全国産業安全衛生大会

近畿 IN 大阪

Kinki Osaka



令和7年

開催期間

9月10日水 12日金

オンライン限定プログラム視聴期間：令和7年9月10日(水)～26日(金)
(※現地開催プログラムとは異なる内容です。現地開催プログラムの配信は行いません)

会場

[総合集会]
インテックス大阪 (大阪府大阪市)

[分科会]
インテックス大阪・ATCホール

参加費

一般 1名 16,500円(税込)
中災防賛助会員 1名 8,250円(税込)

同時開催

緑十字展2025 インテックス大阪

総合集会 特別講演



「多様な生き方を実現するアバターと未来社会」

大阪大学基礎工学研究科 教授 石黒 浩 氏
ATR 石黒浩特別研究所 客員所長

参加お申込みは特設ウェブサイト(4月中旬オープン予定)から!

6月上旬より受付開始

<https://j-lppf2.jp/jisha-taikai2025/> 右のQRコードからアクセスできます



- 【主催】中央労働災害防止協会
- 【協力】公益社団法人大阪労働基準連合会・近畿ブロック各労働基準連合会(県協会)
- 【協賛】各都道府県労働基準協会(連合会)、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会
- 【後援】厚生労働省、国土交通省、環境省、スポーツ庁、警察庁、ILO 駐日事務所、大阪府、大阪市、一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所、全国中小企業団体中央会、日本労働組合総連合会、大阪商工会議所、東大阪商工会議所、大阪府中小企業団体中央会、大阪府商工会連合会、公益社団法人関西経済連合会、一般財団法人地方公務員安全衛生推進協会、公益社団法人日本保安用品協会(順不同/予定、申請中含む)

全ての働く人々に安全・健康を ~ Safe Work, Safe Life ~

JISHA 中災防

Japan Industrial Safety & Health Association



中央労働災害防止協会 教育ゼロ災推進部 イベント事業課
TEL : 03-3452-6402 <https://www.jisha.or.jp/>

大会テーマ 共に築こう 安全・健康 一人ひとりが輝く未来

全国産業安全衛生大会は、全国から産業安全・労働衛生の関係者が一堂に集い、企業の研究発表や、専門家による講演などを行う、国内最大の安全衛生イベントです。産業現場での安全と健康の確保を誓う安全文化の祭典に、ぜひご参加ください。

総合集会

開会式のほか、安全衛生に功績のあった方々の表彰、厚生労働省の講演、特別講演などを行います。

9月10日(水)

会場 インテックス大阪 5号館 (大阪府大阪市)

13:15～17:00 (開場11:30予定)

【アクセス】大阪メトロ「中ふ頭駅」より徒歩約5分、「コスモスクエア駅」より徒歩約15分

特別講演



『多様な生き方を実現するアバターと未来社会』

誰もが自分の分身が欲しいと夢見るのではないのでしょうか。アバター(操作者の意図に従って働くロボットやCGエージェント)は、私たちの暮らしや社会を自由にし、多様な生き方・幸せな社会を実現します。本講演では、アバター研究を通じて見てきた「アバターと人間が共生する新たな未来社会」についてお話しします。

大阪大学基礎工学研究科 教授
ATR石黒浩特別研究所 客員所長 **石黒 浩 氏**

【プロフィール】ロボット学者。大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー。遠隔操作ロボットや知能ロボットの研究開発に従事。人間酷似型ロボット(アンドロイド)研究の第一人者。2015年、文部科学大臣表彰受賞およびシェイク・ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム知識賞受賞。

分科会

全国の事業場からの研究発表をはじめ、最新の安全衛生の課題に対応した講演、パネルディスカッション等、200題を超える多彩なプログラムを予定しています。

9月11日(木)、12日(金)

会場 インテックス大阪 1号館・ATCホール

講演 DX等分科会

9月12日(金)



フジテック(株) 専務執行役員
デジタルイノベーション本部長

友岡 賢二 氏

『フジテックのDX戦略
～全ては安全・安心のために』

講演 ゼロ災運動分科会

9月11日(木)



大阪医科薬科大学
看護学部 教授

飛田 伊都子 氏

『行動を変える心理学』

講演 安全衛生教育分科会

9月12日(金)

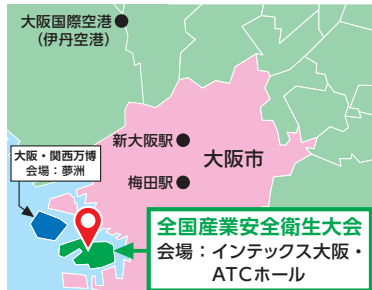


人事・戦略コンサルタント
HRストラテジー代表

松本 利明 氏

『やる気を失った「年上部下」を
戦力化の秘訣とは
～中高年の活性化こそが要』

| 分科会名 | 日程 | 分科会名 | 日程 |
|--|---------|---|---------|
|  安全管理活動分科会① | 9/11、12 |  労働衛生管理活動分科会 | 9/12 |
|  安全管理活動分科会② | 9/11、12 |  メンタルヘルス・健康づくり・健康経営分科会 | 9/11、12 |
|  安全衛生教育分科会 | 9/11、12 |  マネジメントシステム・リスクアセスメント分科会 | 9/11、12 |
|  機械・設備等の安全分科会 | 9/11 |  ダイバーシティ等分科会 | 9/12 |
|  DX等分科会 | 9/12 |  ゼロ災運動分科会 | 9/11 |
|  化学物質管理活動分科会 | 9/11 |  安全管理活動分科会③ | 9/12 |



【全国産業安全衛生大会 最寄り駅】大阪メトロ「中ふ頭駅」「トレードセンター前駅」「コスモスクエア駅」
【公共交通機関での所要時間】
新大阪駅から約45分／大阪国際空港から約1時間20分



ぜんぶのいのちと、
ワクワクする未来へ。

開催期間 2025年4月13日(日)～10月13日(月)
開催場所 大阪 夢洲(ゆめしま)

講演や企業の研究発表の詳しい内容、参加お申込みについてなど、詳細は特設ウェブサイト(4月中旬オープン)をご確認ください。

<https://j-lppf2.jp/jisha-taikai2025/>

お問合せ先 中央労働災害防止協会
教育ゼロ災推進部 イベント事業課
jisha-taikai@jisha.or.jp

